

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和4年11月29日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470500780		
法人名	社会福祉法人 三篠会		
事業所名	グループホーム あすらや荘		
所在地	〒737-0161 呉市郷原町2380番地 (電話) 0823-77-0949		
自己評価作成日	令和4年10月31日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470500780-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年11月24日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

ハード面よりソフト面において、家族や利用者に満足してもらえるよう、職員個々が考え、行動できるよう指導しており、積極的に業務に取り組んでいる。
施設全体で取り組んでいるノーリフティングケアを導入しており、利用者の状態を維持し、長くグループホームで生活いただけるよう取り組んでいる。
研修でも参加できるようにお互いに助け合いながら行っており、関係性は良好である。
インシデントやヒヤリハットも発見者や当事者が家族に説明を行うようにしており、不在時にも他の職員が説明を行えるよう、情報の共有を徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人内の研修体制の充実やホームが目指すべき方針を明確化し、地域ニーズも取入れて運営している。日々の申し送り、毎月のスタッフ会議で話し合いを重ねることで利用者の想いを実現している。食事の充実を図る取り組みとして、行事担当者を中心に毎月の料理教室・おやつ作りをしている。ノーリフティングケア（抱えない介護）を導入し、法人全体で取り組み、利用者の重度化に対し支援している。併設施設からの医療専門職、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・音楽療法士などの助言を得てリハビリ体操やレクリエーションを取り入れ、日々の支援の充実を図っている。

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念・合言葉を決め、朝礼時に復唱するようにしている。	朝礼時に唱和することで意識の向上に努めている。2年前に『ここであなたに会えて良かった、安心をありがとう、あっあすらや荘ってなんかいい』のビジョンを掲げ、実践上の立ち返るべき原点としている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度より地域との交流や夏祭りなど実施出来ていない。	法人が町内会に加入している。以前は災害を想定した地域住民との避難訓練、夏祭り、保育園との交流をしていた経緯がある。コロナ禍のため、交流が難しくなっているが、実習生の受け入れ、自治会・女性会の方とは直接会って話し合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学や実習等の希望を積極的に受け入れ、理解していただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度より実施出来ていない。広報誌を独自に作成し、2ヶ月に1度定期的に活動報告を実施している。	会議は定期的な開催に至っていない。以前は、地域代表者、地域包括支援センター職員、利用者、家族が参加している。地域代表者と地域包括支援センター職員には広報誌を発送している。	コロナ禍でもあり、開催が難しい状況であるが、以前のメンバーとの関係性が途切れない工夫が必要である。書面報告をする中で、意見や要望などを取り入れ、情報交換、意見交換の場となるよう、貴重な意見が活かされるよう努めることを期待する。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度より実施出来ていない。広報誌を独自に作成し、2ヶ月に1度定期的に活動報告を実施し、市町や地域包括へ送付するように取り組んでいる。	保健福祉課へは事故報告書の提出、必要時は電話連絡、直接出向き、協力関係を築くようにしている。法人として、ITを活用した『ひろしま医療情報ネットワーク』に加入することで、情報交換、地域ネットワーク、協力関係を構築している。	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	部署内で研修を実施し、職員間で情報を共有している。また、身体拘束防止委員会にて各事業所間で情報を共有し、協力体制を敷いている。	年2回研修を実施し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。法人全体でのスタッフ会議で、他事業所の取り組み状況を参考にしている。職員同士の言葉掛けで不快なことは、個別で話している。必要時、連絡ノートを活用し、注意喚起をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	部署内で研修を実施し、職員間で情報を共有している。また、虐待防止の委員会や指針等について、努力義務である令和6年3月31日までに各事業所間で整備に向け進めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会が確保できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に重要事項説明書を渡し、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内の苦情処理委員会を設置している他、第三者委員や外部委員会を法人で設置し、対応している。家族にはオンライン面会時や電話で日常生活の状況を説明し、希望に沿った支援を行えるよう努めている。	感染状況に応じて、窓越し面会、オンライン面会、電話の取り次ぎなど柔軟に対応をしている。2カ月毎の広報誌で、職員からのコメントを添えた便りを家族へ送付している。直接事業所に言いにくいこともあり、施設内の苦情処理委員会、第三者委員や外部委員会を法人で設置している。	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>定期的に管理者及び各部署の主任・リーダーが話し合うスタッフ会議を毎月設け、情報共有を図っている。</p>	<p>リーダーとの年3回の個人面談を実施し、必要時は管理者との面談をしている。日頃から職員同士が話しやすい雰囲気を作り、現場の声を大切にし、法人全体で働きやすい職場づくりを目指している。今年度は、流し台(シンク)の環境整備を進めている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>1年間を上期・下期に分け、部署目標に応じた個人目標を設定し、向上心を持って働けるよう努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>随時、研修の案内を配布し、参加を呼びかけている。施設内でも年間計画を作成し、準じて実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>同一法人内の施設と勉強会を行い、他の事業所と情報交換や交流をするよう取り組んでいる。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>サービス利用前に面接を行い、本人と話す機会を作り「生活歴・本人のこだわり」を大切にサポートしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくり努めている。</p>	<p>サービス利用前に面接を行い、家族と話す機会を作っている。また、待たれている際も、適宜様子伺いの連絡を入れながら家族との関係を作っている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>サービス利用前の面接で家族や本人の状況を把握し、意向の確認を行っている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>ご本人の性格や生活リズムを把握する所から始め、荘内での行事や日々の生活を通じて、一緒に過ごす時間を大切にし、関係を築けるよう努めている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響により、事業所間共通でオンライン面会を実施し、本人と話す機会を設けている。外出や外泊は新型コロナウイルス感染症の影響により、制限を設けている状況。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>外出や外泊は新型コロナウイルス感染症の影響により、制限を設けている状況。本人との電話やオンライン面会で関係性を維持している。</p>	<p>感染状況を踏まえ、オンライン面会、窓越し面会、電話の取り次ぎ、年賀状などやり取りをしている。コロナ前は、外出へ行き食事を楽しんだり、家族と外出・外泊をし、馴染みの場所・人との関係継続支援に努めていた。</p>	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員も会話に参加し、利用者同士の関係が良好となるよう促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同じ敷地内の特養や老健と連携して入退所を行い、本人・家族の将来的な不安の軽減に努めるよう事前に説明している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人へ強制することなく、一人ひとりの意向に沿った生活が送れるよう、自己決定を尊重するように努めている。	個々の生活歴・生活状況を把握している。利用者の得意なことに着目し、元着付けの先生から正月のイベント時の初釜では職員へ着物の着付をお願いし、本人の本来もっている力を大事にしている。職員主体でなく、利用者主体になるように、言葉掛けも『～しませんか』と尋ねるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用前の面接で、家族に聞き取り、反映するようしている。入所後も家族の面会時に新しい情報の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日個人記録にてその日の様子や心身の変化を記録し、入所当初は3ヶ月とにモニタリングを行い、1年に1回見直すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>事前に家族や本人から聞き取りを行い、関係職種が集まり、カンファレンスを行い、作成している。</p>	<p>職員と計画作成者が利用者・家族の意思・意向を踏まえ、普段の会話から『～したい』ことを計画に反映し、意欲に繋がる介護計画を作成している。必要に応じて、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・音楽療法士に相談し、助言を受けている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、日々の様子について、個人記録を作成し、連絡ノートにて職員間で情報の共有をしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>個々の状況に合わせてサービスが提供できるように努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>外出行事が出来ていない中、施設内で楽しめる行事を計画し、実施している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>かかりつけ医と連携を図りながら支援している。必要に応じて、家族とかかりつけ医と話し合う機会を確保し、情報を共有している</p>	<p>本人の病状によって利用開始時に事業所の主治医と家族が相談し、かかりつけ医を決めているが、毎月の定期往診や緊急時の事もあり、殆どがホームの協力医を選択している。併設の特別養護老人ホームの歯科診療室での治療や必要時、眼科・精神科を受けられる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>特養診療所の看護師と日々の様子について、報告を行い、連携を図りながら支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に施設で生活している情報を口頭・書面にて報告している。退院の許可が下りた際は、事前に面接に行き、退院後も安心して生活が送れるよう配慮している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>同敷地内の特養・老健との連携を図っており、多職種とご家族と状況に応じ、終末期ケアの実施に向け取り組んでいるが、重度化が見込まれる場合は家族や医療機関との話し合いを行い、方針を共有し、適切な支援が行えるよう努めている。</p>	<p>利用開始時に説明し、看取りは行わないが、重度化した場合は同敷地内の特別養護老人ホーム、老人保健施設との連携を図り、カンファレンスを重ね対応方針を決めている。家族から看取り希望の利用者に対して、重度化した場合に備えて、今後は看取りができる体制づくりを目指している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>施設内で毎年定期的に急変時の対応や心肺蘇生法などの研修を行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>災害時の対応について、全職員が身につけられるよう部署内で机上訓練を行っている。 水害、地震に対するマニュアルを整備しており、火災以外の訓練を行うべく予定。</p>	<p>年2回、夜間想定を含む訓練を実施している。減災対策の取り組みとして、隣接を含む非常食の整備、防災倉庫には、土嚢、投光器など整備している。日頃から火元を出さない工夫として、随時、コンセント点検などを実施している。BCP(事業継続計画)の準備を進めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「不快感・不安感」を与えないように傾聴から入り、相手を尊重した対応が実施できている。	定期的な法人内研修により、意識づけされている。職員は利用者に対し命令、指示することなく言葉使いや口調に日常的に気を付けている。個人ファイルなど記録物は他者の目に触れない部屋に保管しているが、今後、鍵が掛かる書類棚の購入を検討している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	納得のいく説明や声掛けを行い、本人の希望や意見を聴くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	見守り・体調変化の確認に留意し、日課行事の参加は本人の希望を聞く等、一人ひとりのペースを大切にしよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族や本人の希望を取り入れ、本人らしく生活が送れるよう支援している。また、ご家族にも協力を依頼し、季節感ある洋服を持ってきてもらうよう説明している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	決められた食事を提供しているが、苦手なものには代替品を用意する等の対応をしている。毎月、料理教室やお誕生日会で行事食を提供し、楽しい雰囲気の中で調理・食事を行っている。また、食事の片付けをお願いしている。	同敷地内の法人のメイン厨房で作ったものを利用者と職員と一緒に盛り付けを行っている。毎月の料理教室、おやつ作りでは、コロッケ、鮭のホイル焼き、プリンなど手作りを取り入れている。イベント時は、ノンアルコールを提供し、食事が楽しめる工夫や雰囲気づくりをしている。	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者の好みを把握し、身体状況に応じてトロミ使用、冷温とそれぞれ個別提供に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行い、歯科受診を定期的実施し、出来る限り食事がとれるように気を付けている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>立位可能な利用者は必ずトイレで排泄が出来るよう声掛け・誘導を行っている。日中はトイレ誘導し、夜間はおむつ対応するなど状況に応じて対応するようにしている。</p>	<p>排泄チェック表を作成し、排泄状況の検証を行っている。以前、紙おむつの業者と提携し、法人として、おむつ検定の研修を受講した方もいる。リハビリ専門職からの助言などを取り入れ、歩行が不安定な方には、夜間のみポータブルトイレを設置し、自立支援に向けた取り組みをしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>緩下剤服用もあるが、冷たい牛乳の提供や散歩や事業所内の廊下を歩くなど、運動することで排便コントロールしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に入浴日は決まっているが、本人の希望や体調により臨機応変に対応し、週2回の入浴実施を提供している。足を上げることが難しい利用者には手すりや台など用意し、介助にて入浴できるよう支援している。拒否される利用者には時間をずらして再度試みるなど臨機応変に対応している。</p>	<p>基本週2回の午前又は午後入浴機会を設けている。個々の好みのシャンプー、石鹸などを使用している。浴室はユニットごとで異なり、1人用の家庭浴槽、2～3人用の浴槽があり、本人の身体状況に応じて浴室を選定している。入浴が楽しめる工夫として、適宜の足浴、入浴剤やゆず湯など活用している。</p>	

自己評価	外部評価	項目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>自室で休んだり、ホールで対話 をしたりと、それぞれマイペース に過ごしてもらっている</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬処方時に目的や服薬時間を確 認し、誤薬防止のために指示さ れた事を個別に経過報告すると 同時に生活記録に記録している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>本人の身体状況を見極め、趣味 や特技を活かして、出来ること を無理のないよう行うことで満 足感や喜びを味わってもらっ ている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影響 により、外出行事は実施出来て いない。法要などご家族、本人 にとって必要なケースに関して 、施設内で協議し、飲食を控 えるなど感染症対策を徹底した 上で、参加出来るよう支援して いる。</p>	<p>法人内に遊歩道があり日常的に 散歩ができる環境である。状 況に応じて、春のドライブなど 実施している。法要など、本人 にとって必要な事は事業所内 で検討し、感染対策を徹底した 上で参加出来るように配慮して いる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>施設の立替金で対応し、ご家族 へ請求をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム①)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>定期的に「かわらばん」を作成し、ご家族へ送付している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間が不快にならないよう、季節に応じた装飾を行い、目で楽しめるよう工夫している。</p>	<p>リビングテーブルは高さが調整できるタイプである。壁面には、年間を通したイベント行事の写真を掲示している。団地の高台のため、景観も良く、明るい光が差し込む開放的な空間である。玄関に花壇があり、利用者が水やりをしている。日課として、居間にある仏壇でお勤めをする利用者もいる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>利用者が生活しやすいよう、家庭的な雰囲気を感じれるよう努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ベッドとタンスは用意しているが、それ以外に入所時や面会時に本人や家族から希望があれば、以前から慣れ親しんだ衣類や家財道具を持参してもらい、以前の生活空間に近づけるように家族にも協力を得るようしている</p>	<p>居室にはベッドとタンスが備え付けている。家で使用していた使い慣れた物を持ち込み、本人と家族と相談しながら個々の生活スタイル、本人の身体状況に応じて、家具やベッドの位置などレイアウトをしている。掃除や換気に努め、清潔で安全な居室となるように職員間で留意している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人一人ができることは何か模索しながら、一緒にゴミ捨てや洗濯を干したり畳んだり、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目(グループホーム①) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念・合言葉を決め、朝礼時に復唱するようにしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和元年度より地域との交流や夏祭りなど実施出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	見学や実習等の希望を積極的に受け入れ、理解していただけるよう努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度より実施出来ていない。広報誌を独自に作成し、2ヶ月に1度定期的に活動報告を実施している。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	新型コロナウイルス感染症の影響により令和元年度より実施出来ていない。広報誌を独自に作成し、2ヶ月に1度定期的に活動報告を実施し、市町や地域包括へ送付するように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	部署内で研修を実施し、職員間で情報を共有している。また、身体拘束防止委員会にて各事業所間で情報を共有し、協力体制を敷いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	部署内で研修を実施し、職員間で情報を共有している。また、虐待防止の委員会や指針等について、努力義務である令和6年3月31日までに各事業所間で整備に向け進めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学ぶ機会が確保できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入所時に重要事項説明書を渡し、説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設内の苦情処理委員会を設置している他、第三者委員や外部委員会を法人で設置し、対応している。家族にはオンライン面会時や電話で日常生活の状況を説明し、希望に沿った支援を行えるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的に管理者及び各部署の主任・リーダーが話し合うスタッフ会議を毎月設け、情報共有を図っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	1年間を上期・下期に分け、部署目標に応じた個人目標を設定し、向上心を持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	随時、研修の案内を配布し、参加を呼びかけている。施設内でも年間計画を作成し、準じて実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	同一法人内の施設と勉強会を行い、他の事業所と情報交換や交流をするよう取り組んでいる。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	サービス利用前に面接を行い、本人と話す機会を作り「生活歴・本人のこだわり」を大切にサポートしている。		

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	サービス利用前に面接を行い、家族と話す機会を作っている。 また、待たれている際も、適宜様子伺いの連絡を入れながら家族との関係を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用前の面接で家族や本人の状況を把握し、意向の確認を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人の性格や生活リズムを把握する所から始め、荘内での行事や日々の生活を通じて、一緒に過ごす時間を大切にし、関係を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	新型コロナウイルス感染症の影響により、事業所間共通でオンライン面会を実施し、本人と話す機会を設けている。 外出や外泊は新型コロナウイルス感染症の影響により、制限を設けている状況。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	外出や外泊は新型コロナウイルス感染症の影響により、制限を設けている状況。本人との電話やオンライン面会で関係性を維持している。		

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員も会話に参加し、利用者同士の関係が良好となるよう促している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	同じ敷地内の特養や老健と連携して入退所を行い、本人・家族の将来的な不安の軽減に努めるよう事前に説明している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人へ強制することなく、一人ひとりの意向に沿った生活が送れるよう、自己決定を尊重するように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	サービス利用前の面接で、家族に聞き取り、反映するようしている。入所後も家族の面会時に新しい情報の聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日個人記録にてその日の様子や心身の変化を記録し、入所当初は3ヶ月とにモニタリングを行い、1年に1回見直すようにしている。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	事前に家族や本人から聞き取りを行い、関係職種が集まり、カンファレンスを行い、作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎日、日々の様子について、個人記録を作成し、連絡ノートにて職員間で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々の状況に合わせてサービスが提供できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	外出行事が出来ていない中、施設内で楽しめる行事を計画し、実施している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医と連携を図りながら支援している。必要に応じて、家族とかかりつけ医と話し合う機会を確保し、情報を共有している		

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	特養診療所の看護師と日々の様子について、報告を行い、連携を図りながら支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に施設で生活している情報を口頭・書面にて報告している。退院の許可が下りた際は、事前に面接に行き、退院後も安心して生活が送れるよう配慮している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	同敷地内の特養・老健との連携を図っており、多職種とご家族と状況に応じ、終末期ケアの実施に向け取り組んでいるが、重度化が見込まれる場合は家族や医療機関との話し合いを行い、方針を共有し、適切な支援が行えるよう努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内で毎年定期的に急変時の対応や心肺蘇生法などの研修を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の対応について、全職員が身につけられるよう部署内で机上訓練を行っている。 水害、地震に対するマニュアルを整備しており、火災以外の訓練を行うべく予定。		

自己評価	外部評価	項目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	「不快感・不安感」を与えないように傾聴から入り、相手を尊重した対応が実施できている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	納得のいく説明や声掛けを行い、本人の希望や意見を聴くように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	見守り・体調変化の確認に留意し、日課行事の参加は本人の希望を聞く等、一人ひとりのペースを大切にするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族や本人の希望を取り入れ、本人らしく生活が送れるよう支援している。また、ご家族にも協力を依頼し、季節感ある洋服を持ってきてもらうよう説明している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	決められた食事を提供しているが、苦手なものには代替品を用意する等の対応をしている。毎月、料理教室やお誕生日会で行事食を提供し、楽しい雰囲気の中で調理・食事を行っている。また、食事の片付けをお願いしている。		

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>利用者の好みを把握し、身体状況に応じてトロミ使用、冷温とそれぞれ個別提供に努めている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後に口腔ケアを行い、歯科受診を定期的実施し、出来る限り食事がとれるように気を付けている</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>立位可能な利用者は必ずトイレで排泄が出来るよう声掛け・誘導を行っている。日中はトイレ誘導し、夜間はおむつ対応するなど状況に応じて対応するようにしている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>緩下剤服用もあるが、冷たい牛乳の提供や散歩や事業所内の廊下を歩くなど、運動することで排便コントロールしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本的に入浴日は決まっているが、本人の希望や体調により臨機応変に対応し、週2回の入浴実施を提供している。足を上げることが難しい利用者には手すりや台など用意し、介助にて入浴できるよう支援している。拒否される利用者には時間をずらして再度試みるなど臨機応変に対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>自室で休んだり、ホールで対話 をしたりと、それぞれマイペース に過ごしてもらっている</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。</p>	<p>薬処方時に目的や服薬時間を確 認し、誤薬防止のために指示さ れた事を個別に経過報告すると 同時に生活記録に記録している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>本人の身体状況を見極め、趣味 や特技を活かして、出来ること を無理のないよう行うことで満 足感や喜びを味わってもらっ ている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の影 響により、外出行事は実施出来 ていない。法要などご家族、本 人にとって必要なケースに関 して、施設内で協議し、飲食を 控えるなど感染症対策を徹底し た上で、参加出来るよう支援し ている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、お 金を所持したり使えるように支 援している。</p>	<p>施設の立替金で対応し、ご家族 へ請求をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目(グループホーム②)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>定期的に「かわらばん」を作成し、ご家族へ送付している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用空間が不快にならないよう、季節に応じた装飾を行い、目で楽しめるよう工夫している。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>利用者が生活しやすいよう、家庭的な雰囲気を感じれるよう努めている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ベッドとタンスは用意しているが、それ以外に入所時や面会時に本人や家族から希望があれば、以前から慣れ親しんだ衣類や家財道具を持参してもらい、以前の生活空間に近づけるように家族にも協力を得るようしている</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>一人一人ができることは何か模索しながら、一緒にゴミ捨てや洗濯を干したり畳んだり、安全に自立した生活が送れるよう工夫している。</p>		

V アウトカム項目(グループホーム②) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームあすらや荘

作成日 令和5年1月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議について定期的な開催に至っていない。	・2か月に1度の活動報告の継続。 ・以前のメンバーとの関係性の継続。	・書面報告をする中で、意見や要望を取り入れ、情報交換の場とする。	2023年1月～ 2023年6月
2	35	災害対策についてBCP(事業継続計画)の準備。	・BCP(事業継続計画)を作成する。	・BCP(事業継続計画)の整備を行う。	2023年1月～ 2023年12月
3	36	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保について。	・個人ファイルの棚を鍵のかかる書類棚に変更し、プライバシーに配慮する。	・鍵が掛かる書類棚を購入する。	2023年1月～ 2023年6月
4	52	居心地の良い共用空間づくりについてGH①前の畑の整備。	・ガーデニングを楽しみ四季を感じる。	・草むしりをする。 ・マルチシートを敷き整備する。 ・季節の花を植える。	2023年1月～ 2023年6月
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。